



# 栃木医療センター 広報誌

No.41 2020 January

理念  
信頼 貢献 協働



## Contents

- 年頭のご挨拶 .....1
- アピアランスケアセンター .....4
- 第73回 国立病院総合医学会 .....2
- 診療科紹介（歯科口腔外科） .....5
- 市民公開講座 .....3
- 連携医紹介 .....6
- ノロウイルスによる感染性胃腸炎を予防しよう・病院地図 .....裏表紙



2020年

# 年頭のご挨拶

院長 長谷川 親太郎

明けましておめでとうございます。2020年の年頭に当り、ご挨拶を申し上げます。

はじめに、昨年の台風や豪雨等で被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を願っております。

さて2020と聞くと、多くの方が東京オリンピックを思い浮かべると思います。私は、小学校3年生の1964年に東京オリンピックを経験しました。当時、沿道から聖火ランナーに国旗を振って声援したのを覚えています。あれから56年経ち、再び日本でオリンピックを経験できることに感慨を覚えています。今回は医療関係者として、様々な責務を果たさねばならないと気を引き締めつつ、東京オリンピックの成功を願っています。

医療の話に移ります。昨年も記載しましたが、日本は世界に先駆けて少子高齢化社会を迎えます。日本の総人口も減少しますが、医療受療率の高い高齢者人口比率が増加し、それを支える現役世代人口が減少することが大きな課題となっています。国はこれに対応する様々な施策を実施しています。医療福祉に関しては、地域医療構想・働き方改革・医師の偏在対策という「三位一体の改革」を推進することにより、少子高齢化を乗り切ろうとしています。国が考えたこの施策は、それぞれの医療機関が身の丈にあった機能を分担し、他の医療機関と緊密に連携を図ることにより、日本の医療提供体制を維持して行こうというものです。当院としては、高度急性期と急性期機能を担当し、回復期や慢性期機能を担う医療機関と協働することにより、地域に貢献する方針です。

高度急性期・急性期機能を担うためには、安定した医師確保が不可欠です。当院では、新専門医制度へも迅速に対応しましたので、若手医師の確保と育成は順調に進んでいます。今後、医師の働き方改革を推進していかねばなりません。幸いなことに、当院では年々医師数が増えており、今後も働き方改革に対応可能な医師数の確保ができると想定しています。また、様々な各種指標も改善・向上していますので、これまで以上に地域医療への貢献を果たしていきたいと決意しています。

最後になりましたが、当院は「ワンランク上の医療機関を目指して、さらなる進化を続ける」ことを目標に努力してまいります。本年も宜しくお願いいたします。



## 第73回 国立病院総合医学会

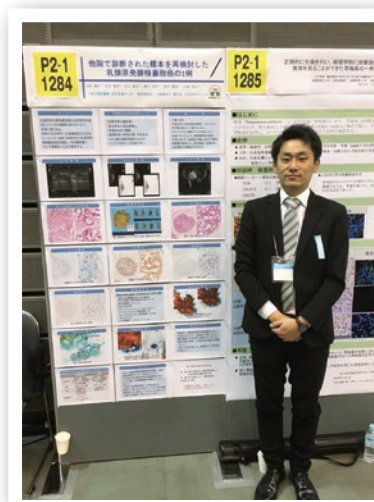
### 第73回国立病院総合医学会に参加して 他院で診断された標本を再検討した乳腺原発腺様嚢胞癌の1例

臨床検査科 林 陽介

2019年11月8日から9日にかけて名古屋国際会議場において第73回国立病院総合医学会が開催され、「他院で診断された標本を再検討した乳腺原発腺様嚢胞癌の1例」という演題でポスター発表をしてきました。

当院の乳腺手術は年間90例程行われていますが、乳腺細胞診を行うことは少なく、また乳腺原発の組織型としても珍しいものでした。今回の発表は他院で診断された標本を今後の経験に活かすため、再検討するという試みを行ったものです。普段見られない標本ということで検査科内でも様々な意見がありましたが、意見を交換しあえるいい機会ができたと思います。また当院で行う場合において想定する事や、対応策も考えることができました。今回の発表を通じ、院内の検査以外の事に興味を持つことで意識の活性化ができ、自身のレベルアップだけではなく、検査科全体の意識向上につながるのではないかと思います。

今後も学会発表はもちろん、日々の検査の中での疑問を解決するような試みを増やし、患者さまのためにより良い医療を提供できるよう努力したいと思います。



### スニチニブ服用中に可逆性後白質脳症症候群を発症した患者に対して 薬剤師が介入した1症例

薬剤部 杉崎佐良紗

2019年11月8日、9日に第73回国立病院総合医学会が名古屋にて開催され、「スニチニブ服用中に可逆性後白質脳症症候群を発症した患者に対して薬剤師が介入した1症例」について口頭発表を行いました。

今回発表した症例は、病棟薬剤師が早期に可逆性後白質脳症症候群の原因として常用薬のスニチニブを疑い適切に介入した結果、早期完解につなげることができました。また、入院時の主治医と協議をしただけでなく、薬剤師が両科の架け橋役として処方医とも情報共有をし、スニチニブの再投与を回避することで重篤化を防止することに貢献することができました。

当院ではありがたいことに病棟薬剤師の存在が定着してきました。これからも、病棟に薬剤師がいてよかったと他職種に言ってもらえるよう、日々業務に励みたいと思います。





## 市民公開講座が 開催されました

秋晴れの爽やかな空のもと、栃木医療センター市民公開講座が開催されました。今回の市民公開講座のテーマは『がんとアピアランスケア』。アピアランスケアとは、がん治療における外見の変化に対してサポートし、そして、治療中においても自分らしくいられるよう、外見のサポートを含めて患者さん本人を支えていくことです。

今回は、放射線治療やリンパ浮腫、紫外線について私たちアピアランスケアセンターのスタッフがお話しさせていただきました。第二部では、特別講師として、がん患者さん専用のビューティーサロン『セレナイト』のさとう桜子講師より、今なぜアピアランスケアが必要なのか、ご自身の体験も踏まえてお話ししていただきました。

会の最後には、患者さんと講師だけのお時間とさせていただきます。眉毛の描き方を実践方式で行いま

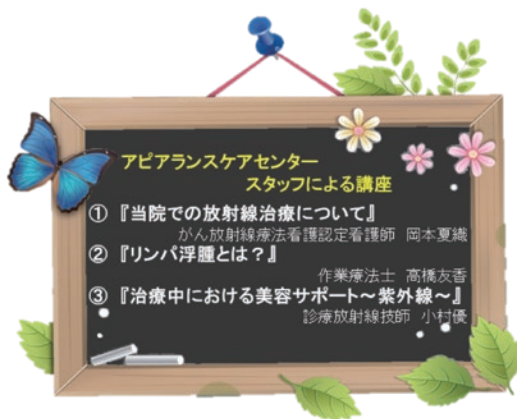


### ご参加いただいた皆様からのお声

アピアランスケアという分野について、積極的に取り組まれているところが良かったです。チームワークが素敵です。  
(患者様)

美容と医療とはすごく関係性が深いと、改めて実感しました。がんと闘う方達は不安感が大きいと思う中、このようなセミナーで安心感が得られると思います。  
(サロン経営者)

アピアランスケアについてほとんど知らなかった。実際に、治療を体験した方からのお話を聞くことができ、患者さんがどんなことを思っているのか、こういった対応をしたほうが良いのかなど、考えることが出来て良かった。  
(医療従事者)



### さとう桜子氏によるメイク講座



誰でも、TPOや周囲の状況、年齢、流行などに合わせ、髪型や化粧、服装などを変えることはあり、外見は一定ではありません。それはがんに罹患しても同じであります。『アピアランスケア』という言葉は、まだまだ栃木県内そう多くは広まっておりません。今回の講座が、アピアランスケアはなぜ今必要なのかと、少しでも患者さんやご家族の方、お友達、そして私たち医療従事者や美容関係者も考えるきっかけになればと思います。



文責：アピアランスケアセンタースタッフ 放射線科 小村

県内初 NHO栃木医療センター

# アピアランスケアセンター

## 新外来 スタート

2019年10月1日より



## アピアランスケアセンター開設しました。

がんの治療中や治療後には、さまざまな外見(アピアランス)の変化が起こります。しかし、痛みが無く、身体を動かす上で問題なければ見過ごされがちです。アピアランスケアは、単に外見をきれいに装うのではなく、自分らしさを保ちながら、社会とのつながりを持ち続け生きるために必要なものです。患者さんのお悩みはひとつそれぞれです。アピアランスケアが必要な患者様へのご対応を、当院、放射線治療室に開設しました、『アピアランスケアセンター』でお受けし、その後、お悩みに沿った各専門分野のスタッフに伝え、複数のスタッフで連携しながらサポートいたします。

<p><b>皮膚トラブル 皮膚科</b></p>	<p><b>アピアランスケアサポート</b> 髪・肌・爪等の整容について セルフケアのアドバイス ウィッグやケア帽子等紹介</p>	<p><b>ヘルシー外来</b> 内科医師・栄養士による 栄養相談</p>	<p><b>リンパ浮腫ケア</b> 患肢周囲径測定 セルフケア指導 スリーブ紹介 作業療法士による複合的治療 手術適応例の院外紹介</p>
<p><b>就労サポート</b> 産業医との連携</p>	<p><b>可動域制限など</b> 作業療法士によるリハビリ</p>	<p><b>口腔内チェック</b> 歯科</p>	



### アピアランスケアセンター長ご挨拶



医学の進歩により、がんは治る病気と  
なっている一方で、治療に伴う副作用は  
多様化・長期化しています。アピアランス  
(外見)ケアは、特別なことではなく、自  
分らしく人生を過ごしていただくために、  
全てのがん患者さんに必要なケアです。  
ささいなことでもどうぞお気軽にご相談  
ください。

放射線科医長 村上恵理



### 栃木アピアランスケア研究会

患者様・美容関係者・医療従事者向け研究会を開催して  
おります。また、アピアランスケアや美容、医療に関する情報  
発信を行っています。放射線治療や検査だけでなく、治療中  
におけるスキンケアの仕方、コスメの選び方などなど…  
お気軽にご相談ください。 <https://hikidashi.blog/>

【研究会お問い合わせ先: ykomura@tochigi-mc.jp  
NHO栃木医療センター 放射線科 小村】



### まずは、お悩みご相談ください

さっきはちょっと、先生に聞けなかったな～こんなこと聞いても良かったのかな～…ということなどなど、お困りのこと、なんでもご相談ください。

初めてご利用の際には、アピアランスケア外来の  
診察予約が必要です。

診察日:入院患者 毎週水曜日PM  
外来患者 毎週木曜日PM

※各部門のサポートは上記曜日に限らず、ご都合に  
合わせてのご相談、対応となります。

アピアランスケアセンター 外来予約  
地域医療連携室 TEL:028-622-5241  
(電話予約対応月～金 8時30分～17時00分)

完全予約制



# 診療科紹介

## 歯科・歯科口腔外科・小児歯科

歯科口腔外科部長 須賀 賢一郎

### 当科の特色・診療方針

栃木医療センターは、県北・県央の地域包括医療（ケア）の一端を担う地域医療支援病院であることから、当科においても難度の高い抜歯や外来手術、さらには入院を必要とする全身麻酔手術などの口腔外科を中心とした専門性の高い診療を行っております。診療にあたるスタッフは、口腔外科学会認定指導医1名、同専門医1名、同認定医2名、歯科医師2名、歯科衛生士5名、歯科技工士1名の計10名が専任スタッフとして常勤しており、その他に各分野に造詣の深い専門医7名が非常勤医として勤務しております。

#### 対象疾患

- ・抜歯（智歯抜歯や埋伏歯抜歯、有病者・小児の抜歯など）
- ・炎症（骨膜炎、顎骨骨髓炎、蜂窩織炎などの化膿性炎）
- ・外傷（顔面・口腔裂傷、歯の脱臼、顎・顔面骨骨折など）
- ・嚢胞（歯根嚢胞、含歯性嚢胞、その他の嚢胞性疾患）
- ・口腔がん・良性腫瘍・腫瘍類似疾患
- ・粘膜疾患（難治性口内炎、白板症、扁平苔癬、ウイルス性疾患）
- ・先天異常・発育異常（口唇裂口蓋裂、顎変形症など）
- ・顎関節疾患（顎関節症、顎関節脱臼など）
- ・口腔乾燥症（ドライマウス、シェーグレン症候群）
- ・唾液腺疾患（唾石症、唾液腺腫瘍、ガマ腫など）
- ・睡眠時無呼吸症候群（口腔内装置）

全身麻酔手術では口唇裂口蓋裂や顎変形症などの先天異常・顎発育異常をはじめ、口腔がん、外傷、嚢胞、唾液腺疾患など多岐にわたる疾患の手術を行っており、その件数も年間500症例を超えます。常に安全でかつ確実な質の高い医療を提供できるように、入院治療だけでなく、外来小手術にもクリティカルパスを導入し、新生児からご高齢の方まで、安心して治療を受けていただけるよう努めております。

昨年度の初診患者は4,054名であり、うち約60%の患者が紹介患者でありました。紹介医療機関は、宇都宮市内だけではなく、県内各市町村、さらには関東、東北エリアからの紹介患者も年々増加しております。

きめ細やかで丁寧な診療、そして紹介医療機関との緊密な報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）をモットーに、患者様には「この病院を紹介してもらって本当に良かった」と感じていただける診療科となるようスタッフ一同、誠心誠意努めております。

#### 平成30年度治療成績

外来初診患者数は4,054名、入院患者総数は延744名でした。入院下での手術件数（外来での手術は除く）は総計683件、その内全身麻酔手術は507件、静脈鎮静下手術55件、局所麻酔手術21件でした。疾患別では、炎症や外傷、小児歯科治療や埋伏歯抜歯などの症例が例年に比べ多くなりました。口腔がんや良性腫などの腫瘍性疾患、嚢胞性疾患はほぼ例年通りでそれぞれ100例ほどです。最近の傾向として、口唇裂口蓋裂症例は初回手術だけではなく、他院から紹介された各種の二次修正手術症例も増加しております。また、顎変形症手術では下顎単独の移動術に加え、難度の高いLe Fort I型骨切り術や顎間骨整位術を同時に行う上下顎同時移動術症例が増加しております。



スタッフ集合写真



手術室写真

## よつばハートクリニック

院長 寺本 洋之

多くの患者さんが幸せに暮らせるようお役に立ちたいということでこんな名前とロゴを思いつきました。私は2016年9月に竹林町に開業するまで23年余の長きに亘り済生会宇都宮病院に勤務し、その頃より栃木医療センターを含む多くの医療機関と連携して参りました。得意とするのは心臓の病気ですが、性格上‘診られません’と言うことが出来ないのも、糖尿病や呼吸器疾患など関連する病気に一つ一つ対応しているうちに、一人の患者さんが持つ様々な問題を横断的に解決することを是とするようになりました。睡眠時無呼吸症候群もその一つで、栃木医療センターの耳鼻咽喉科と連携して、200人前後の持続陽圧呼吸療法（CPAP-ASVを含む）の管理をさせて戴いています。

‘ポリファーマシー’と言って複数の科から沢山の薬を貰っていて、それがそれぞれどんな相互作用があるかもわからないということが以前からよくあり、社会問題にもなっています。そんな薬の『交通整理』も得意とするものの一つです。重要でないものは大胆に、大事なところは慎重に入れ替えたり外したり。「先生は薬に詳しいねえ」と言われたりしますが、ちょっと変な気分ではあります。そんなわけで‘早くて便利’と言うわけには参りません。基本的に予約制であり、風邪で来られる患者さんは少なくなっています。一方、今まさに苦しいという方には迅速に対応しており、先日心筋梗塞の患者さんをこちらに紹介・救急搬送させていただきました。急性疾患では栃木医療センター他、周辺の医療機関と連携しつつ、時代の最先端がどこに行っているかも意識して不整脈や弁膜疾患では時に東京ほか県外の施設にもお願いをしています。

お蔭様で開業してまだ3年と少しですがスタッフにも恵まれ、市内はもとより市外からも多数の患者さんにお越し戴いています。冒頭にも少し書きましたが、何人の患者さんをハッピーに出来るかが勝負であり、こちら常に進化していかなければならないと考えています。一人一人の患者さんを大切に拝見し、笑い声の絶えないクリニックにしたいと思っており、また新たな患者さんとの出会いをスタッフ一同心よりお待ち申し上げております。

### ご案内

**診療科目** 内科全般 循環器内科  
糖尿病・内分泌内科 アレルギー科  
睡眠時無呼吸症候群 在宅酸素療法 他

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	
14:00~17:00	○	○		○	○		
<b>休診</b> 日曜日・祝日、水・土曜午後							



〒321-0974 栃木県宇都宮市竹林町980-1 TEL 028-627-8010

# ノロウイルスによる感染性胃腸炎を予防しよう!

感染防止対策室

## ☆症状

下痢、嘔吐、腹痛、吐き気など

## ☆潜伏期間

24～48時間

## ☆感染経路

接触感染（嘔吐物や排泄物への接触）  
経口感染（貝類の生もの、あるいは不十分な加熱）  
飛沫感染（嘔吐物に存在するウイルスが乾燥して口や鼻の粘膜に吸入される）



## ☆感染対策

### ☆石けんでの手洗い（アルコールが効きません!）

＜方法＞手洗いは流水で手を濡らし石けんを泡立ててから、手のひら、手の甲、指の間、親指、爪先、手首を30秒かけて擦り洗います。

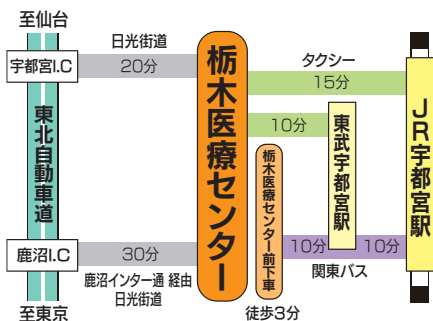
＜タイミング＞

食事の前、トイレの後、帰宅した後など



☆生ものはよく加熱しましょう  
(85～90℃で90秒)

## 交通のご案内



### 発行人

独立行政法人国立病院機構  
栃木医療センター  
院長 長谷川 親太郎

〒320-8580  
栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37  
TEL. 028-622-5241  
FAX. 028-625-2718  
URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

